

理想的プロポーションに関する自己意識

川村短大 村大 短大 大就杉 〇実田 茂短洋 呂大子 裕子杉東 田智家 中枝政 美子大 智家 安文教 盛大知 都女野 子短恵 山(非)大子 田寛共 山藤立 陽由女 学紀大 園子家 短関政 大東小 大東小 学林 江院茂 口女雄

<目的> 前報では、女子大生の持つプロポーションの、自己の現実に対するイメージを、描画課題を用いて、計量的に検討した。本報では、被験者が認識した自己の身体から発生する、理想とするプロポーションについて、意識的レベルを探ることにした。即ち、どのような身体を理想としているのか、自己の身体つきに対する意識をどの部分に置いているのかなど、身体各部のサイズに対する意識や理想が、各個人の現実といかに関わっているかを検討し、女子大生のプロポーションに対するイメージを考察する。

<方法> 前報と同一の被験者201名を対象に、プロポーションに対してどのような理想を持っているか、プロポーションにかかわる部位を、バストサイズ：小さい、やや小さい、そのままよい、やや大きい、大きい、足の長さ：短い、やや短い、そのままよい、やや長い、長い、など21項目について、5段階評価による意識調査を行った。そして、因子分析、及びクラスター分析により女子大生の理想のプロポーション意識の特徴を明らかにした。

<結果> 因子分析の結果、固有値1.0以上、バリマックス回転後抽出されたものには、1. 量に関する因子、2. 胸に関する因子、3. 長さに関する因子、4. 頸に関する因子、5. 上半身の形の因子、の5因子であった。更に、因子得点をもとに、クラスター分析を行い類型化を試みると、9グループがみとめられた。